

広報 市民リポーター



佐々木リポーター

土と環境への取り組み

大館市生活研究グループの活動について

リポーター 佐々木 百合子さん（浦山）

環境問題がクローズアップされている現在、農家の女性の立場からこの問題に積極的に取り組んでいる『大館市生活研究グループ』を紹介しします。将来にわたり安心して農業を続けるため、学習・情報交換・実践を行っている農業女性グループで、昭和三十六年に発足。現在百二十五人も会員がいます。

昨年、自然に優しい循環型農業への取り組みとして「EMボカシ」による有機質のたい肥を使用した野菜栽培を進めています。代表の石垣一子さんからお話を伺い、その活動をリポートします。

なぜ家庭のごみを？

際限なくでる家庭の生ごみには、農家の私たちがさえ処理に困っている現状です。また、有機栽培と言われながらも便利な化学肥料や手軽な農業に頼っているのも実情です。このままでは限界が来ると感じた会員が自分たち出来ることから始めようとした時に出会ったのが、家庭の生ごみを有機質のたい肥にリサイクルする「EMボカシ」でした。

市農林課や県農業改良普及センターの指導のもと、グループとして取り組むことにしました。昨年の七月から学習を始め、今春から

「EMボカシ」のたい肥による野菜作りを実践しています。



EMボカシとは？

EMは英語の有効 (Effective) と微生物 (Micro-organisms) を組み合わせた造語で「有用微生物群」の略です。EMが土の中で増殖すると、土中の空気や水も浄化され植物が生き生きとしてきます。また、その分泌物は植物の栄養になるものが多く含まれており、農薬や化学肥料を使う以上の成果が得られると言われています。

EMの初期増殖を促進するのが「EMボカシ」で、EMを入れた糖蜜、米ヌカ、モミがらを混和し、一カ月寝かせて発酵させるだけ。身近にある材料で安く簡単に作れます。

これを生ごみ処理容器（コンポスト）にいたれた生ごみの上にふりかけ、草や土を少し入れておくだけで、悪臭の全くない有機質のたい肥になります。野菜畑にはさらに菜種かすや骨粉、鶏糞などを混合して使用します。

交流学习と試食会

七月三十一日、田代町・比内町の仲間との「EMボカシたい肥実証巡回研修」が行われました。会員が実践している畑を視察し、工夫していることや苦労したこと、説明され「農薬の量が少なくてすみそうだ」との成果が語られていました。和やかな雰囲気の中にも、会員の真剣な意気込みが感じ

られた交流学习でした。

また、八月上旬には収穫した野菜の試食会を開催。会員の畑で取れた夏野菜を、参加者の目の前で調理し試食してもらいました。試食されたかたは「とにかく甘みがあり、やわらかい」と好評でした。

生き生きとした顔

今年七月、学校給食やスーパーなどの事業系の生ごみをたい肥としてリサイクルするコンポストセンターが本格稼働しています。

家庭の生ごみをリサイクルし、土を再生するEMボカシたい肥。安全な食を消費者に提供し、さらに市のごみ処理費の削減にもつながる循環型農業の取り組みが始まっています。

一人では出来ず長続きしないことも、多くの仲間と一緒に行うことで課題解決に取り組んでいる生活研究グループの会員たち。野菜はもちろん、その顔も生き生きとしていました。

土作りは最低三年かかると言います。女性特有の持続力で大きな成果が得られることを期待します。

